

10月1日から実施します

ごみの分別収集

不燃物は分けて出してください

家庭から出るごみは、年々増え続けています。それに伴い増えるのが、ごみ処理経費です。ごみの減量対策は、全国の約50県の市がなんらかのかたちで実施しています。富士市では、10月1日から、市内一斉に「ごみの分別収集」を行います。今回は、この分別収集について、桜ヶ丘の芹沢あけみさん(32歳主婦)と中島の大畑久美さん(33歳主婦)に、市役所環境衛生課、石川課長から聞いていただきました。



1日平均165トンのごみが

大畑 こんにちは

石川 やあ、よくいらっしゃいました。

芹沢 よろしくお願ひします。

大畑 さっそくですが、市内では毎日どの位のごみが出ますか。

石川 55年度をみると、1日平均もせる物、つまり「可燃物」が137トン、もせない物、「不燃物」が28トン。合計165トンも出ました。

大畑 収集車は何台ありますか。

石川 現在、可燃物の収集車が20台、不燃物の収集車が7台です。

芹沢 毎日、たくさんのごみが出るんですね…。これらのごみはどのように処理しているのですか。

石川 可燃物については、第一清

掃工場で焼却しています。不燃物については、大淵の産業廃棄物処理場で埋立処分しています。

大畑 ごみを処理する費用は、どの位かかるのですか。

石川 55年度をみると、約8億円かかっています。これを1世帯あたりにすると1万3,770円にもなるんですよ。

芹沢 ずいぶんと多くの税金が使われるわけですね。

それから、ごみの量は年々増えていますか。それとも減る傾向にあり

ますか。

石川 それはもう、年々増えているんです。その率は毎年度3%から5%の増加です。

芹沢 だいぶ増えているんですね。

資源を再利用

大畑 ごみの中にも、資源として再利用や再生できる物があると思うんですが…。

石川 そうなんです。

54年に市で、可燃物の分析をした

市指定天然記念物

新たに3件を指定

市教育委員会は、このほど、白髭神社のヒイラギ(大淵次郎長)、本照寺のカヤ(厚原)、木之元神社のムクロジ(鈴川4丁目)、3本を市指定天然記念物に指定しました。

白髭神社のヒイラギは、高さ6.5m、太さ1.9mあり、すでに指定されている瑞林寺のヒイラギとともに巨木で、樹型はすばらしく市内では珍

しい存在です。

本照寺のカヤは、高さ16.5m、太さ3mで、枝張りも大きく、すでに指定されている曾我寺のカヤ、一色のカヤに準ずる巨木で、平野部では貴重な存在です。

木之元神社のムクロジは、高さ11.6m、太さ1.8mあり、樹勢はよく珍木として市内では貴重な存在です。



次郎長 白髭神社のヒイラギ